合格体験記（一般入学試験）

生活科 学部 食物栄養科 学科 食物科学 専攻

出身高校名 東大津 高校

（1）同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は食と栄養のことに興味があり、大学で専門的に学びたいと思いそれらを学べる学部のある同志社女子大学に決めました。また、オープンキャンパスに行ったとき学校の雰囲気がとても良かったので行きたいという気持ちが強まりました。

（2）一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

一学期は私の学校では文化祭や体育祭がありまだ本格的に受験勉強を始めるのは難しい時期ですが 授業はしっかり予習をして挑み今までより集中して受けることや英語の小テストはあやふやではなくしっかり暗記して挑むといったなっとした心がけを積み重ねることで忙しい中でも受験勉強の土台作りができました。

〔夏休み〕

この時期は受験期の中で一番ゆとりのある時期なので 沢山の時間を勉強にあてることはもちろんそれぞれの教科の時間の使い方も重要になってきます。私はこの時期に理科を仕上げることがとても大事だと思います。食物栄養科学科は理科の配点がとても高くて合否に大きな影響が及ぶので この時期に仕上げると合格に一歩近づくと思います。他の科目は基礎・基本を徹底的に繰り返すことが大事だと思います。

〔2学期～入試直前〕

夏休みに作った土台に少しずつ応用を積み上げていくことを意識しました。また、基礎・基本は衰えないように定期的に復習することが大切です。11月頃から少しずつ受験する大学の過去問を解き始め 自分のレベルがどれくらいなのかをしっかりと把握していきました。過去問は5年分の1日目、2日目の両方を2周はしました。そうすることで自然と化傾向がわかり、点も伸びました。さらに、試験本番に時間配分で焦ることもなく落ち着いて受験することができました。過去問をやり込み、どんな問題が出るのかわかった上で対策をしていくと効率的に点を伸ばすことができるので過去問を研究することは重要だと思います。

（3）この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は夏休み前にある文化祭・体育祭のダンスの長として参加しました。春から準備が始まり、1学期はあまり勉強する時間が取れなかったけれど受験生であるという意識はいつも持つようにしていました。文化祭体育祭が終わってからは気持ちを切り替え本格的に受験生として勉強に取り組むようになりました。受験生だからといってテレビやスマートフォンを見ないわけではなく、私はテレビが好きなので この番組だけと決めてテレビを楽しみました。また、スマートフォンは使うアプリを決めてそのアプリだけは少し見るという風に自分なりのルールを作って息抜きをしていました。なかなか成績が伸びなくてしんどくなるときなどは好きなことをしてリフレッシュすることがとても大切だと思います。

（4）受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

勉強している時期はとてもしんどくてストレスが溜まるかもしれませんが合格するとその日々のことなんてあっという間に忘れてしまいます。長い人生の中でたったの1年頑張るか頑張らないかでその後の人生が大きく変わると思うと頑張るしかないと思うはずです。この1年一生懸命頑張ったら明るい未来が待っています。夢に向かって頑張ってください。